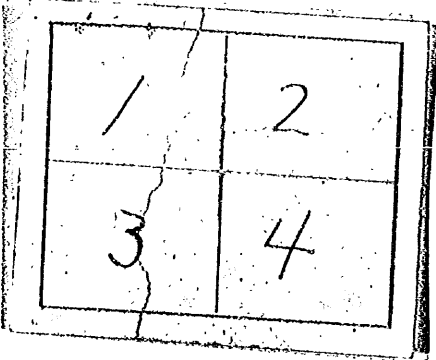


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1096
1097
1098
1099

部隊原簿

第一二四号

部隊原簿

第一二四師團

5A

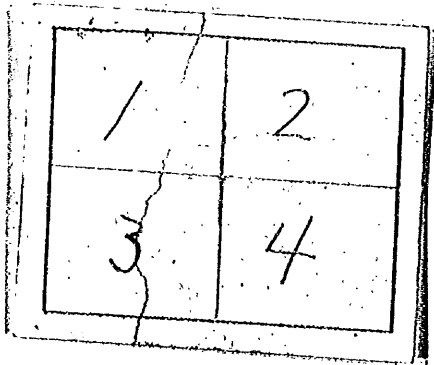
部隊原簿

第一二四師團

部隊原簿

第一二四師團

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一二四師團 部隊名 第一二四師團司令部

通稱 遠謀一五三三一

郵便所名

全般概要

轉入 轉出

員人編制

別除

隊長名

戰時

平時

駐屯地

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ッ返の變動

隊別計

滿洲残留

收

〇、八、九、一〇、八、一五

〇、八、一六、一六、一六

〇、八、二四

〇、八、二七、二七〇

〇、九、一、二七〇

〇、九、二、二七〇

〇、九、三、二七〇

〇、九、四、二七〇

〇、九、五、二七〇

〇、九、六、二七〇

〇、九、七、二七〇

〇、九、八、二七〇

〇、九、九、二七〇

〇、九、一〇、二七〇

(26) 117. (案) (20.1.16編成)

隊	部	醫	軍	部	理	經	部	器	兵	部	謀	參	部	官	副	別	除
												參謀長 岩崎 豊清			中將 椎名 正健 副官 井上		隊長名 ()内は先代を示す
右 同			右 同			右 同			右 同		右 同				綏 綏		戰時
右 同			右 同			右 同			右 同		右 同				稜 稜		平時
																	駐屯地

本隊は、戦時中、支那方面に展開し、戦後、日本に帰国した。

副官 井上 昭吉は平安にて分隊

隊	部 醫 軍	部 理 經	部 器 兵	部 謀 參	部 官 型	員人制編	
						別 隊	隊 長 名
				參謀長 岩崎 豊清	中將 椎名 正健 副官 井上	()内は先代を示す	開入 戦時 戦後
同	右 同	右 同	右 同	右 同	陽 綏	駐 屯 地	平時
同	右 同	右 同	右 同	右 同	稜 穆	戦時	
				參謀長 岩崎 豊清 副官 井上		戰鬥間の状況及損耗	
						終戦後の人員變動	編成委員井上副官は専断にて分置
						作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
						入「ソ」人員	隊別計
						滿洲殘留	
					第一、第二及第四 エムンモラスタ	收 容 所	收容所名
						所 入	死亡
						滿洲 より	領 計
						者 數	狀況不明

部隊名 第二二四師團司令部

通稱 遠謀一五二三一

郵便所名

一〇、八、予知退京城の故
 藩國長次次郎并上中尉松
 安(分限)不羽(羽枝
 東京城にて別収容
 一〇、九、一、第二七〇作
 大隊(長 關東隊中隊長
 小松中尉)司令官松田大
 隊、通信隊、工兵隊、輜重
 隊、牡丹江、補充馬隊計一
 〇〇〇名
 右隊外の部隊も東京城に於
 て二七一、二七二、二七三
 の各大隊に夫々編入
 一〇、九、二、東京城出發
 右隊(温春)松河(コ
 ン)トク(第一)收容所入所
 (九、二七)
 一〇月約五〇〇名(第一)收容
 所(一月頃約一、四〇〇
 名)四收容所に移送(二七
 二)大隊を除く)

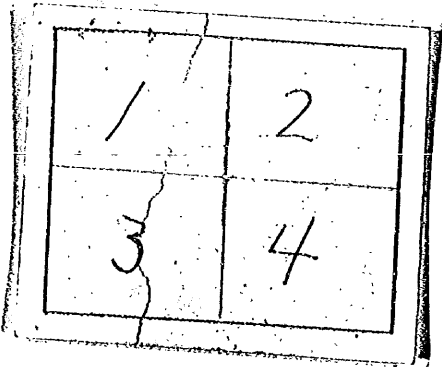
(26) 117. (兼) (20.1.16編成)

部 理 管	部 醫 獸	部 醫 軍	部 理 經	部 器 兵	部 謀 參	部 官 軍
					參謀長 參謀 參謀	參謀長 參謀 參謀
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
					參謀長 參謀 參謀	

部 理 管	部 醫 獣	部 醫 軍	部 理 經	部 器 兵	部 課 参	部 官 監
					参 課 器 兵	監 官 器 兵
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	同 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	同 同
					参 課 器 兵	監 官 器 兵

117. (家) (20.1.16編成)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一二四師團部隊名 歩兵第二七一聯隊(一)

通稱號 滿七六四
遠謀一五二二二

郵便所名

全般概要

二〇、二、上旬
編成開始
二〇、二、一〇、編成完了
するも補充兵未入のため
安東、第一師団守備隊上
りの編入その約半数を占む
るが故に野戦歩兵聯隊とし
て成立に多くの無理を生ず
爾後野戦歩兵教育に専念す

二〇、三下旬、軍旗拜授

二〇、六、陣地構築の命を
受く

二〇、六中旬より陣地構築
のため聯隊は差次目的地へ
進出

戦死者一五〇名
傷亡五〇〇名
一〇〇名
修繕時部隊は軍旗召集を解
散せざりしため召集解散者
なきも行動間病氣と飢饉の
ため兵にして歸れるもの一
〇名
其の他軍旗遺棄せるもの多
し
聯隊時部隊の野戦裝備は陣
地構築時引續き開戦を
迎へるため多数に甚しく悪
く「入ソ」十一月に至り寒
冷のため多大の困苦を感じ
あり、従つて作業隊として
「入ソ」せる兵にして寒冷
及び病氣のため歸れたるもの
多からんと推察さる。

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

人員制編
員人制編
二〇、六、
伊藤挺大へ出
發
二〇〇名

3410 (20.1.16編成)

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	開入 戦員	駐屯地 平時戦時	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソ人員 隊別計	滿洲残留	收容
聯隊本部	大佐 安土武比古 大尉 上甲 照吉	50	綏陽	河芬綏及地陣臺林北稜稜	昭和二十年五月二十七日駐屯地綏陽出發、六月一日稜稜東南方陣地構築、八月十三日、八月十四日二回にわたつて「ソ」軍と交戦後東京城(江省)に於て武解	作業大隊より 入ソ迄の變動 伊藤挺大尉 上甲照吉大尉		チーダ ニラブカ イムク タイセイ ムフソフ ウネロシ ウズベツ
第一大隊本部	大尉 村上 清秀 中尉 野崎和一郎		右同	右同				
第一中隊	中尉 堤 見士 小隊長 鈴木		右同	右同				
第二中隊	中尉 吉田		右同	稜稜東南地區に於て陣地構築中開戦、防禦戰鬥をし後東京城南方山中より鹿道を經て東京城に至り昭和二十年九月十五日武解				
第三中隊	中尉 黒澤 隆也 小隊長 西村 健次 見士 吉川 英次 見士 市毛 正		右同					

中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部 本 隊 聯	別 隊
中尉 黒澤 隆也 小隊長 西村 健次 見士 吉川 英次 見士 市毛 正 軍曹 正	中尉 吉田	中尉 堤 小隊長 鈴木	大尉 村上 清秀 副官 野崎 和一郎 中尉 野崎 和一郎	大佐 安土 武比古 副官 上甲 照吉 大尉 上甲 照吉	隊長 名 (内は先代を示す)
150					關人 駐屯地 時 時 平 時 戰 時
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	陽 綏 河芬綏及地陣臺林北稜穆
		右 同 穽後東南地區に於て陣地構築中開戦、防禦戦を以て後東京城南方山中より鹿道を経て東京城に至り昭和二十年九月十五日武解	右 同 昭和二十年五月二十七日駐屯地綏陽出發、六月一日穽後東南地方陣地構築、八月十三日、八月十四日二回にわたつて「ソ」軍と交戦後東京城に向ひ後退、途中教化に向ひ鹿道山中で集結、九月十四日鹿道(牡丹江省)に於て武解		戰鬥間の狀況及損耗 戦後の人員變動 作業大隊より入ソ一迄の變動 作戦大隊、長 上甲照吉大尉
					入ソ人員 除別計 滿洲殘留 收容所 收容所名 人員死亡 歸還人員 狀況不明者數
					收容所名 人員死亡 歸還人員 狀況不明者數

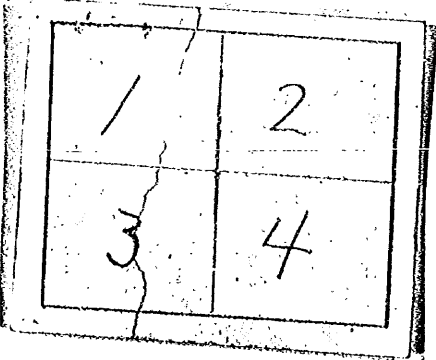
團部隊名 步兵第二七一聯隊(一)

通稱號 滿七六三四 遠謀一五三三二

郵便所名

隊中銃關機一第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本隊大一第
中尉 薩摩 茂一	中尉 墨澤 隆也 小隊長 西村 健次 見士 吉川 英次 見士 市毛 正 軍曹	中尉 吉田	中尉 堤 小隊長 鈴木 見士	大尉 若上 清秀 中尉 野村 和一郎
150	150			
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
二〇、八、一三、隊長兼新編中隊			<p>稷波東南地区に於て陣地構築中開戦、防禦戦を以て後東京城南方山中より鹿道を経て東京城に至り昭和二十年九月十五日武解</p>	<p>昭和二十年五月二十七日駐屯地を離れ、六月一日稷波東南地区に到着、八月十三日、八月十四日二回にわたつて「ソ」軍と交戦後東京城に向ひ後退、途中教化に向ひ鹿道山中で集結、九月十四日鹿道（牡丹江省）に於て武解</p>
			〇九、一四、隊長兼新編中隊	

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊名 歩兵第二七一聯隊(二)

通稱號

滿七六四
遠謀一五三三

郵便所名

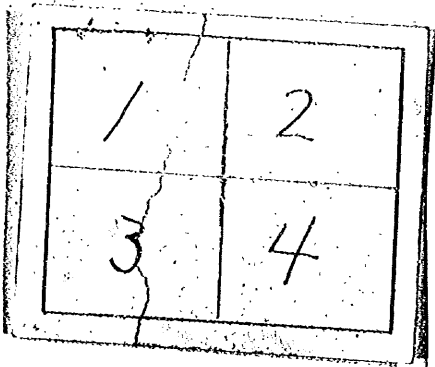
編製人員	隊別	隊長名 (内は先代を不す)	開入時	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソシ迄の變動	入ソシ人員計	滿洲残留	收容所		歸還人員計	状況不明者数
				平時	戦時						收容所名	所入死亡		
	第一聯隊	大尉 藤井 毅治												
	第二聯隊	中尉 (谷野 照雄)												
	第六中隊	中尉 山田 和富												
	第五中隊	中尉 原田 明												

中尉 (谷野 照雄) 森田中尉以下二十名を出してしたが開戦と共に
 松芬河に向地視察班(伴野見士以下十二名)を出してしたが開戦と共に
 昭和三十二年八月十五日移後陣地に於て戦死十二十三名、行方不明約三十名、爾後山中に集結(約九十名)十月十五日汪清縣境附近に於て終戦を知る、十月二十日延吉に收容される(森田中尉以下九十名) 谷野中尉は八月十二日移後に於て戦死

二〇、八、二一、三〇、八、二一、三、移後陣地に於て戦死後、大石順造後退 二〇、九、八、大石順造で武解

二〇、八、二一、三、隊長戦死

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一二四師團部隊名 歩兵第二七二聯隊 (三)

通稱號

滿洲 七五六四
遼東 一五三三

郵便所名

全般概要

二〇、九、一四、光中尉、
夏井見士、青川見士以下一
〇〇名隊員
作業大隊

二〇、九、一六、松河に向
け行軍、牡丹江、八道河に
到着され作業大隊編成
入ソ」準備部隊主力は
大尉村上清孝と長とし牡丹
江六道河に到着されありし
は作業大隊を編成するに及
びその長を上甲師団に指名
され作業大隊長大尉主計兼
中尉、西村少尉等を夫々隊
長に指名され、之を除く他
の隊員は當時四車と共に特
許にありし時校隊所所の
隊員と共に時校隊團に編入
せらる。

二〇、二、一、時校隊は
「ソ」に到着所業

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員人制編

隊長名
()内は先代を示す
中尉 岸本 賀春
森山 唯義

開人
駐屯地
時員
平時
時數
時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ」迄の變動

隊別計

入ソ」人員
滿洲残留

第十	第九	第三	第二	第三	別	開人	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ」迄の變動	隊別計	入ソ」人員	滿洲残留
中尉 森山 唯義	中尉 (近藤 賀春)	大尉 石島 長吉			中尉 岸本 賀春 森山 唯義								

陸軍部 隊名 歩兵第二七二聯隊 (三)

通稱號

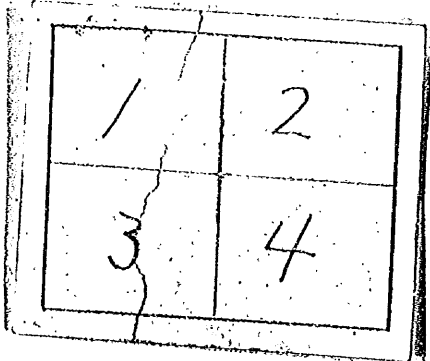
滿七五六二四
遠謀一五三三二

郵便所名

第十第	隊中九第	部本隊大三第	李行隊大二第	隊中銃關機三第	別隊	人員別
中尉 森山 唯義 中尉 森山 唯義	中尉 (近藤 茂) 坂本 賀孝	大尉 石島 長吉		中尉 岸本 賀春 中尉 森山 唯義	隊長名 (内は先代を示す)	戰時人員
						平時人員
						戰時人員
						戰時人員
						戰時人員
戰鬥間の状況及損耗						
終戦後の人員變動						
作業大隊より入ソノ迄の變動						
隊別						入ソノ人員
計						
滿洲残留						
收容所名						收容所
人員						
死亡						
滿洲より						歸還人員
ソノ領						
計						
者數						狀況不明

隊 中 一 十 第	隊 中 十 第	隊 中 九 第	部 本 隊 大 三 第	李 行 隊 大 二 第
中尉 松島 省三	中尉 森山 唯義	中尉 (近藤 岸本 賢者 茂) (教示)	大尉 石島 長吉	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍一二四師團 部隊步兵第二七一聯隊(四)

通稱號

滿洲 七五六四
遼謀 一五三三

郵便所名

全般概要

第三大隊の戦況
主力は松花江一ヶ小隊は東
遼山陣地にて強固に守り
に準備陣地たる松花江陣地
に優勢なる敵の攻撃に反撃
を加へたが堅固な陣地は
陣地深く突進し各陣地
は包圍を受けて孤立し
二〇、八、一二、に至り統
率を失ひて全隊は散り
前進を遂行し玉砕した敵軍
大嶺山監獄哨長、中尉近藤
長下三四名(約一五名は
下の哨長所)中隊長所委員
は降参した哨長所は全滅
二〇、八、一二、第十中隊
は後方へ撤退し終戦後牡丹
江に收容さる

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員人制編

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ迄の變動	入ソ人員 除別計	滿洲殘留
第三大隊中銃機	中尉 田中 忠						
第三大隊步兵小隊							
第三大隊李行隊							
通信中隊	中尉 越口 景男						
步兵中隊	中尉 齋藤						
聯隊	少尉 藤谷						

部隊番号第二七二聯隊(四)

通稱號 滿七五六四 遠謀一五三二二

郵便所名

隊 別	隊 中 砲 兵 歩	隊 中 信 通	本 行 隊 大 三 第	隊 小 砲 兵 歩 隊 大 三 第	隊 中 銃 關 機 三 第	出 降	員 人 別 編
						別 隊	隊 長 名 (内は先代を不す)
少 尉 熊 谷	中 尉 藤 澤	中 尉 越 口 景 男				中 尉 田 中 謙	
						戰 時 員 平 時 戰 時	駐 屯 地
						戰 斗 間 の 状 況 及 損 耗	
						終 戦 後 の 人 員 變 動	
						作 業 大 隊 以 外 の 入 ソ 込 の 變 動	
						入 ソ 込 の 人 員 計	
						滿 洲 殘 留	
						收 容 所 名	
						所 入 死 亡	
						滿 洲 以 外 領 土 計	
						歸 還 人 員	
						者 數	狀 況 不 明

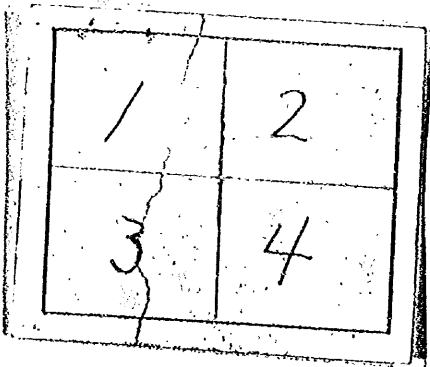
三〇、八、一二、第十号隊
は後方へ轉送し遊撃隊任丹
江に攻撃する

三〇、八、一二、第十号隊
は後方へ轉送し遊撃隊任丹
江に攻撃する

隊小馬乘	李行隊聯	隊中砲兵歩	隊中通信	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第
	少尉 熊谷	中尉 齋藤	中尉 越口 景男		

隊小馬乘	李行隊聯	隊中砲兵歩	隊中通信	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第
	少尉 熊谷	中尉 斎藤	中尉 越口 景男		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1120
1121
1122
1123

第五軍第一二四師團部隊名 歩兵第二七二聯隊(一)

通稱號

満蒙 八四八
遠謀 一五二二三

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人訓編	隊別	隊長名	戰人	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	入ソ人員	満洲残留
<p>二〇、六、駐屯地を遼陽入 兵を撤収し、主として、遼河、陣 地構築のため移動</p> <p>二〇、八、一〇、野戦衛隊 方陣地を「ソ」軍機甲の攻 撃を受け、牡丹江方面に退却 隊の主力は、後退、遼陽を自 衛隊隊は、益々退却し、遼河 河平方面に北進方面に退 却し、遼陽と近い各地で攻 撃を受ける模様</p> <p>二〇、九、一、二、部隊主力 は、遼河を渡り、遼陽</p> <p>二〇、九、一、四、拉古攻撃 所に入所</p> <p>二〇、一、一、二、縱谷河 流域に「ソ」タイセツト 地帯攻撃所入所 第二大隊は、東京路で、遼河、 東京城に攻撃</p> <p>八、三、一、一、部(第一機中 第三中、第六中、第七中、 第二機中の一部第三大隊本 部、第三機中約七〇〇名) 石頭にて攻撃</p> <p>八、三、一、石頭出發開始に て作業大隊編成、九、二七 迄、遼河に攻撃、同E、遼河出發 入ソ」</p> <p>「O」I「R」P「S」 「地帯」O「P」A「C」H「E」 地帯に攻撃</p>		<p>二〇、五、頃 在留部隊各 中隊三〇名位 入隊</p> <p>二〇、七、頃 切込隊として 各中隊より 〇名位繰出し 一二四七の指 揮下に入り グーリン</p> <p>二〇、七、頃 在留部隊入隊 (右同位)同部 隊には、鮮果若 干あり</p> <p>歩三四四部隊 (一一一團)より 歸屬者あり</p>	<p>二〇、七、頃 切込隊として 各中隊より 〇名位繰出し 一二四七の指 揮下に入り グーリン</p>	<p>3410 (20.1.16編成)</p>	<p>別 隊</p> <p>聯隊 本 部 (騎生)</p> <p>第一 大隊 (大和)</p> <p>第一 中隊 (龍黒)</p> <p>第二 中隊 (川戸江)</p> <p>第三 中隊 (鈴十五)</p>	<p>大佐 石川 榮治 副官 高木 中尉 高木</p> <p>少佐 山崎 謙二</p> <p>少尉 壬井 堅二 (中尉 江戸川)</p>	<p>30</p> <p>20</p> <p>230</p> <p>230</p> <p>230</p>	<p>南 綏 南 綏 南 稜</p>	<p>聯隊長、旅手自決、旅隊長、 副官本部幹部は代死することになり</p> <p>二〇、八、一、二、隊長山崎で戦死 木下准尉、佐藤中尉、島田伍長戦死</p>	<p>作業大隊名不明 大隊長 川崎大尉</p>	<p>隊別 計</p>	<p>満洲残留</p>	

3410 (20.1.16編成)					員人編編
五)三第	隊中(川戸江)二第	隊中(龍黒)一第	部本和大(隊大)一第	部本(駒生)隊聯	別隊
	少尉 土井 堅二 (中尉 江戸川)		少佐 山崎 謙二	大佐 石川 榮治 副官 高木 中尉	隊長名 ()内は先代を示す
30	230	230	20	30	戦 闘 人 時 員
				南 綾	駐 屯 地 平 時
				南 綾 南 稜	戦 時
	二〇、八、一二、隊長越山で戦死 木下准尉、佐藤軍曹、馬場伍長戦死			隊長、隊手自決軍旗奉還 副官本部隊部は代馬隊に戦死	戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗
					終 戦 後 の 人 員 変 動
				作業大隊より 入ソ返の變動 作業大隊不明 大隊長 川崎大尉	入ソ人員 隊別計
					滿洲殘留
				アルチヨム タイセツト ネーブルスカヤ ロンドコ ビロビジャン	收 容 所 名
					所 入
					死 亡
					滿洲より領計
					歸 還 人 員
					状 況 不 明 者 数

部隊名 歩兵第二七二聯隊(一)

通稱號

滿八四三八
遠謀一五二二三

郵便所名

二〇、八、一〇、一、部隊が...

二〇、九、一四、拉古收容所に入所。

二〇、一〇、一、二、部隊が...

二〇、一〇、一、三、部隊が...

二〇、一〇、一、四、部隊が...

二〇、一〇、一、五、部隊が...

二〇、一〇、一、六、部隊が...

二〇、一〇、一、七、部隊が...

二〇、一〇、一、八、部隊が...

二〇、一〇、一、九、部隊が...

二〇、一〇、一、一〇、部隊が...

二〇、一〇、一、一一、部隊が...

二〇、一〇、一、一二、部隊が...

二〇、一〇、一、一三、部隊が...

二〇、一〇、一、一四、部隊が...

二〇、一〇、一、一五、部隊が...

二〇、一〇、一、一六、部隊が...

二〇、一〇、一、一七、部隊が...

二〇、一〇、一、一八、部隊が...

二〇、一〇、一、一九、部隊が...

二〇、一〇、一、二〇、部隊が...

二〇、一〇、一、二一、部隊が...

二〇、一〇、一、二二、部隊が...

二〇、一〇、一、二三、部隊が...

二〇、一〇、一、二四、部隊が...

二〇、一〇、一、二五、部隊が...

二〇、一〇、一、二六、部隊が...

二〇、一〇、一、二七、部隊が...

二〇、一〇、一、二八、部隊が...

二〇、一〇、一、二九、部隊が...

二〇、一〇、一、三〇、部隊が...

二〇、一〇、一、三一、部隊が...

二〇、一〇、一、三二、部隊が...

二〇、一〇、一、三三、部隊が...

二〇、一〇、一、三四、部隊が...

二〇、一〇、一、三五、部隊が...

二〇、一〇、一、三六、部隊が...

二〇、一〇、一、三七、部隊が...

二〇、一〇、一、三八、部隊が...

二〇、一〇、一、三九、部隊が...

二〇、一〇、一、四〇、部隊が...

二〇、一〇、一、四一、部隊が...

二〇、一〇、一、四二、部隊が...

二〇、一〇、一、四三、部隊が...

二〇、一〇、一、四四、部隊が...

二〇、一〇、一、四五、部隊が...

二〇、一〇、一、四六、部隊が...

二〇、一〇、一、四七、部隊が...

二〇、一〇、一、四八、部隊が...

二〇、一〇、一、四九、部隊が...

二〇、一〇、一、五〇、部隊が...

3410 (20.1.16編成)

隊中 (古加) 銃關機一第	隊 中 (鈴十五) 三 第	隊 中 (川戸江) 二 第	隊 中 (龍黒) 一 第	部本和大 (隊大) 一第	部 本 (駒生) 隊 聯
		少尉 土井 堅二 (中尉 江戸川)		少佐 山崎 謙二	大佐 石川 繁治 副官 杉本 義 中尉 青木 義
230	230	230	230	20	30
					南 隊
					南 隊
		二〇、八、一二、隊長 鷗山 重光 木下 准尉、佐藤 守重、馬場 伍長 戦死			南 隊

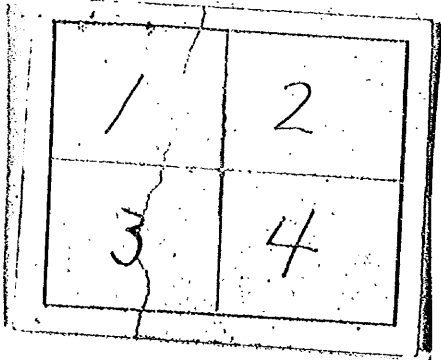
隊長 鷗山 重光
大隊長 川崎 大尉

上欄の数字は、この資料の編纂に際して、各部隊の戦死者数を調査した結果として、二七の数字が入っている。

3410 (20.1.16編成)

隊中(古加)銃關機一第	隊中(鈴十五)三第	隊中(川戸江)二第	隊中(龍黑)一第	部本和大(隊大)一第	部本(湧生)隊聯
		少尉 土井 堅三 (中尉 江戸川)		少佐 山崎 謙二	大佐 石川 泰治 副官 高木
230	230	230	230	20	30
					南 義
					南 義
		二〇、八、一二、隊長鎌山で戦死 木下准尉、佐藤中尉、島崎伍長戦死			臨時本隊、臨時隊、臨時中隊、臨時小隊、臨時班、臨時隊員
					大隊長 川崎大尉
					アンネン タウセツ ネーデルス ロンボ ボロボシ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1128
1129

第五軍第一二四師團步兵第二七二聯隊(二)

遠稱號

滿八四一八
遠謀一五二二三

郵便所名

全般概要

轉入
轉出
十九年以降

員人別編

隊長名
(内は先代を示す)

駐屯地
戦時
平時

戰鬥間の狀況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ返の變動

入ソ人員
隊別計

滿洲殘留

第六	隊中(萬興)五第	隊中(英)四第	部本(近左)隊大二第	李行隊大一第	隊小砲兵歩隊大一第
中尉 前野	中尉 秋田 爲憲		少副尉 谷		
	169 1小 54 2小 54 3小 44	90.8.9			
	稜 移				
	二〇、九、二、東京城にて 二〇、八、一六、中隊解散 二〇、九、一、東京城にて武庫				

二〇、九、二、東京城にて
二〇、八、一六、中隊解散
二〇、九、一、東京城にて武庫

部隊名 歩兵第二七二聯隊(二)

通稱號

滿洲 八四八
遠東 一五二二三

郵便所名

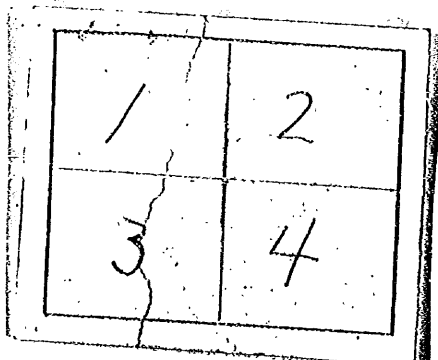
第 五 隊	隊 中 (葛 異) 五 第	隊 中 (英) 四 第	部 本 (近 左) 隊 大 二 第	李 行 隊 大 一 第	隊 小 砲 兵 步 隊 大 一 第	降 員 制 編	別 隊
中 尉 前 野	中 尉 秋 田 爲 憲		少 副 官 谷				隊 長 名 () 内 は 先 代 を 示 す
	169 1小 54 2小 54 20.8.9 3小 44						隊 員 数 平 時 戦 時
	稜 移						駐 屯 地
	移 動 に 伴 い て 陣 地 構 築 防 禦 態 勢 を 変 更 二〇、八、一六、中 隊 解 散 二〇、九、一、東 京 城 に て 其 册						戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗
							終 戦 後 の 人 員 變 動
	二〇、九、二、東 京 城 に て 第 二 七 二 大 隊 を 編 成 (大 尉 岡 村 善 夫)						作 業 大 隊 よ り 入 ソ ン 迄 の 變 動
							隊 別 計
							滿 洲 残 留
							收 容 所 名
							所 入 者 数
							死 亡 者 数
							滿 洲 ソ ン 領 者 数
							歸 還 人 員 者 数
							状 況 不 明 者 数

隊小砲兵歩隊大二第	隊中(菱)六第	隊中(高真)五第	隊中(葵)四第	部本(近左)隊大二第	奉行隊大一第
	中尉 前野	中尉 秋田 爲憲		少副官 谷	
		169 1小 54 2小 54 20.8.9 3小 44			
		後 接			
		後接にて陣地遷延 防禦戦をなす 二〇、八、一六、中隊解散 二〇、九、一、東京城にて武解			

二〇、九、二、東京城にて
第二七三大隊を編成
(大尉 岡村晴夫)

隊小砲兵歩隊大二第	隊中(莖)六第	隊中(莖)五第	隊中(莖)四第	部本(近左)隊大二第	李行隊大一第
	中尉 龍野	中尉 秋田 爲憲		少副官 谷	
		169 1小 54 2小 54 30.3.9 3小 44			
		稜 移			
		二〇、九、二、東京城にて 第二七二大隊を編成 (大尉 岡村晴夫)			

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1150
1151
1152

第五軍第一二四師團司令部 歩兵第二七二聯隊 (二)

通稱 號

漢字 入 四 八
一五二二三

郵便所名

全般概要

轉入
轉出
十九年以降
十九年以降

員人編

隊長名
(内は先代を示す)
少尉 草薙

關入
戦時
平時
戦時
戦時
戦時

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動
兼通達等、三師団長官通達制を受け自決

作業大隊より
入「ソ」迄の變動

入「ソ」人員
隊別計

滿洲殘留

中 (橋) 八 第	隊 中 (橋) 七 第	部本 (杏銀) 隊大 三 第	季 行 隊 大 二 第	隊中 (草薙) 銃器機二第
中尉 高田 正一	中尉 藤隆 少隊長 丸尾 吉郎	大尉 松村		
230	174 <small>15小 22 21小 31 2小 30</small> 20.8.9	20	40	230
右 同	稜 穆			
八、九、「ソ」軍小部隊を要退 八、一、「聯隊合流のため撤退 八、三、「聯隊附近にて食料	主力は備前予備隊として肉攻、遊撃戦に 参加、第一小隊は陣地に於て防禦戦 二〇、五、「東京城にて武解 二〇、八、三、「主力は石原で武解			
	九、二、「東京城にて第二七 二大隊 (岡村晴雄) 主力は門前で第二六七大隊 (大尉 後藤義三郎)			

オブルモチニ

歩兵第二二七二聯隊(三)

通稱 遼謀一五四三

郵便所名

第 八 (橋) 隊	第 七 (椿) 隊 中	第 三 隊 大 (杏銀) 部 本	第 二 隊 大 (幸行)	第 二 隊 大 (草) 銃 砲 機	編 制 人 員	隊 長 名	戰 闘 間 人 員	駐 屯 地	戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗	終 戦 後 の 人 員 変 動	作 業 大 隊 以 上 の 入 ソ ン 迄 の 変 動	入 ソ ン 人 員 隊 別 計	滿 洲 残 留	收 容 所 名	所 入 死 亡	歸 還 人 員	状 況 不 明 者 数
中尉 高田 正一	中尉 鶴 隆 少隊長 丸 尾 吉 郎	大尉 松 村		少尉 草 達	230	() 内 は 先 代 を 示 す	230			遼 謀 一 五 四 三 三 三 浦 伍 長 員 補 給 部 を 受 け 自 決							
230	174 <small>15 28 1小 2小 3小</small>	20	40	230													
右 同	稜 移																
八、九、「ソ」軍小部隊を撃退 八、一、聯隊合流のため撤退 八、三、聯隊附近にて武蔵	主力は各團予備隊として内攻、遊撃戦闘 に参加、第一小隊は陣地に於て防戦戦闘 二〇、九、一、東京城にて武蔵 二〇、八、三、一、主力は石原で武蔵																
	九、二、東京城にて第二七 二大隊 (大尉 岡村晴雄) 主力は西側で第二六七大隊 (大尉 渡邊三郎)																
	オブレチエ																

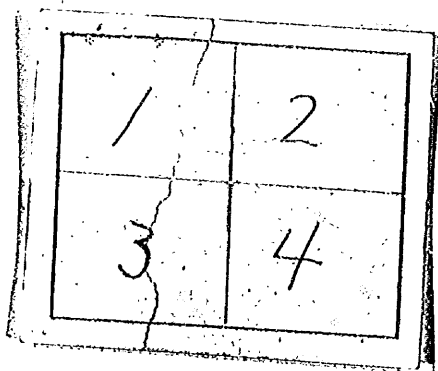
隊中(木乃)九第	隊中(橋)八第	隊中(楯)七第	部本(杏銀)隊大三第	率行隊大二第	家子(西)隊三二第
中尉 小林	中尉 高田 正一	中尉 鶴隆 少隊長 丸尾 吉郎	大尉 松村		
230	230	174 <small>(精算15 精算28) 1小 25 2小 31 20.8.9 3小 30</small>	20	40	200
		稜 穆			
右 同					
<p>二〇、八、八、高嶽、二〇、八、一一、關 嶺八〇八高地を擧ぐ、二〇、八、一一、關 嶺街道寄の山中で戦ふ 二〇、八、一一、高嶽後遺 八、三三、牡丹江、八、二六、奉安、 八、三三、東京城各地に移動、九、五、奉 安と東京城間にて此解 奉安、蘭州經由牡丹江に集結</p>	<p>八、九、二、軍小部隊を擧 八、一一、蘭州合流のため撤退 八、三一、蘭州附近にて武解</p>	<p>主力は蘭州予備隊として内攻、遊撃隊に に参加、第一小隊は陣地に於て防衛戦 二〇、九、一一、東京城にて武解 二〇、八、三一、主力は右翼で武解</p>			

一、牡丹江田邊

九、二、東京城にて第二七
二大隊 (大尉 岡村晴造)
主力は内面を第二六七大隊
(大尉 後藤嘉三郎)

隊中(木乃)九第	隊中(橘)八第	隊中(椿)七第	部本(杏銀)隊六三第	季行隊大二第	隊中(三草)第一二第
中尉 小林	中尉 高田 正一	中尉 鶴隆 少隊長 丸尾 吉郎	大尉 松村		
230	230	174 <small>指揮官15 1小 23 2小 31 3小 30</small> 208.9	20	40	230
	右 同	稜 移			
二〇、八、八、開戦、二〇、八、一一、固 強八〇八高地を進攻、二〇、八、一五、統 府街道沿の山中で戦斗 二〇、八、一八、移装後退 八、二三、牡丹江、八、二六、奉天 八、三一、東京城各地に移装、九、五、奉 安と東京城間にて武解 奉安、瀋陽經由牡丹江に集結	八、九、一、一軍小部隊を撃退 八、一一、聯隊合流のため撤退 八、三一、瀋陽附近にて武解	主力は瀋陽予備隊として肉攻、遼寧戦線斗 に参加、第一小隊は陣地に於て防禦戦斗 二〇、九、一、東京城にて武解 二〇、八、三一、主力は石原で武解			
一一、一一、牡丹江出撃					
		九、二、東京城にて第二七 二大隊 (大尉 岡村晴雄) 主力は瀋陽で第二六七大隊 (大尉 後藤三郎)			
		オブリチエ			
タイセツト地区 第二三收容所					

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1135
1134
1133

第五軍第一二四師團部隊名 歩兵第二七二聯隊(四)

通稱號

滿八五四八
總隊一五二二三

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソシ迄の變動	隊別計	滿洲殘留	收
隊中(城赤)砲兵歩	隊中(穂千高)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中(心貢)銃關機二第	中尉 朝日 一雄	149	240	40	40	230	九、一九、第一四四大隊に(隊長)編入(長)元補佐(第一四八大隊(約一ヶ小隊)(田邊大尉)			
<p>九、一〇、二、道西子にて死傷 隊中(城赤)砲兵歩 隊中(穂千高)信通 李行隊大三第 隊小砲兵歩隊大三第 隊中(心貢)銃關機二第</p>														

隊名 歩兵第二七二聯隊(四)

通稱號

滿洲 八四三八 遠謀一五二三

郵便所名

聯	隊中(城赤)砲兵歩	隊中(穂千高)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中(心黄)銃關機二第	別 隊
	中尉 朝日 一雄					隊長名 (内は先代を示す)
	149	240	40	40	230	戦時 戦時 戦時 戦時 戦時
						駐屯地
	<p>移設附近に於て激戦、砲は全部破壊され遺棄の状態となり生存者四脱す 九、一〇、二、道河子にて其解</p>					戦闘間の状況及損耗
						終戦後の人員變動
	<p>九、一九、第一四四大隊に (隊長) 補入(長 元道英 男) 第一四八大隊(約一ヶ小隊) (田邊大尉)</p>					作業大隊より入「ソ」迄の變動
						入「ソ」人員
						満洲残留
						收容所名
						所人 死亡
						満洲より領
						計
						者 数
						状況不明

隊小馬兼	李行隊驛	隊中(城赤)砲兵歩	隊中(穂千高)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊六三第	隊中(心実)砲兵歩二第
		中尉 朝日 一雄				
	120	149	240	40	40	250

部隊附近に於て戦斗、砲は全部破壊され、高の取廻となり生存者僅数す
九、一〇、二、道阿子にて武備

九、一九、第一四四大隊に
(隊長) 堀入(長 元海兵衛)
第一四八大隊(約一ヶ小隊)
(田邊大尉)

隊小馬乗	李行隊駱	隊中(城赤)砲兵歩	隊中(穂千高)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊六三第	隊中(心文)砲兵歩二第
		中尉 朝日 一雄				
	120	149	240	40	40	230
		<p>修補附近に於て戦斗、砲は全部破壊され遺骸の状となり生存者四名す 九、一〇、二、遺骸を示して此解</p>				
		<p>九、一九、第一四四大隊に (隊長) 堀入(長 光通侯 第一四八大隊(約一ヶ小隊) (田邊大尉)</p>				